



広島中央トピックス



▲「原産西条柿」を一つ一つチェックするJA選果場のスタッフ



「西条柿」色、玉太り上々 原産西条柿生産出荷組合

JA広島中央原産西条柿生産出荷組合は10月中旬から11月中旬、「原産西条柿」を出荷しました。猛暑の影響

で色づきが遅れましたが、上々な仕上がりでした。産直市などで販売した他、贈答用として全国に発送しました。

管内は西条柿発祥の地として知られ、原産西条柿生産出荷組合の19戸が約14haで栽培しています。JA選果場では、生産者が持ち込んだ柿を職員が手に取って品質などを確認し、3等級に選別。選果機で5階級に選別し、渋抜き用のドライアイスを入れて梱包して出荷しました。

同組合の松井憲治郎組合長は「自慢の原産の味を多くの消費者に楽しんでもらいたい」と話しました。

JA大和支店とJA共済連広島は、ホイッスル付きライト1000個を三原市立大和中学校に贈りました。不審者や熊への対策など、通学の安全確保に活用してもらい、安心して暮らせる地域づくりを目指します。

同市大和町では熊の出没が相次ぎ、地域住民の危機感が高まっています。全校生徒にホイッスル付きライトを寄付し、登下校で活用してもらいます。

10月21日に、深川誠治支店長が生徒にライトを手渡しました。深川支店長は「過疎地域では、地域やJAにとって子どもは宝。次世代を担う生

交通安全・熊被害防止へ 大和中学校へホイッスル付きライト寄付



▲生徒にホイッスル付きライトを手渡す深川支店長(左)

徒の成長を、地元JAとして応援したい」と話しました。



フレイル測定会とPRイベント 豊栄支店

JA豊栄支店は10月16日、「年金感謝デー」に合わせ、フレイル測定会とJAバンクのPRイベントを開きました。地域住民が集まる場づくりにつなげ、暮らしやすい豊かな地域づくりを目指します。

フレイル測定会には、東広島市や地域包括支援センター、社会福祉協議会などが協力。野菜の摂取量の測定やフレイルの問診、口腔機能の測定などの結果を基に、保健師や歯科衛生士、管理栄養士が個別にアドバイスしました。

また、JAでの年金受給者特典や「JAバンクアプリプラス」をPR



▲手をかざして野菜摂取量を測定する利用者(手前)

し、キャンペーンの応募を促しました。

フレイル測定会は12月にも予定しています。



酒まつり盛況 JA2会場でイベント開催

JA広島中央地域は10月11、12日に開かれた酒まつりに出店しました。JAふれあい会場(JA本店駐車場)では、青壮年連盟が野菜や果物、卵を販売し、スーパーボールすくいを行なった他、JA西条支店の射的、JAキッチンカー、飲食ブースなどが軒を連ねました。ステージでは地元団体がダンスや太鼓、バンド演奏などを披露。JAキャラクターが登場した他、広島県出身の姉妹ユニットMeibus(メビウス)も会場を盛り上げました。

とれたて元気市となりの農家店



▲JAキャラクターが登場し、来場者とふれあいました

もサテライト会場としてイベントを開きました。



水 稲

令和7年度の反省と令和8年産に向けて

◆令和7年産作況について

令和7年産の広島県の水稲作況単収指数は10月10日発表現在で105、全国的には102となり、豊作傾向となりました。

4月下旬から5月連休にかけて田植え時期に気温も平年より高く推移し、生育（活着）も順調でしたが、5月16日頃に梅雨入りして気温も下がり、分げつも若干抑え気味になりました。しかし、6月27日頃に平年より20日以上早く梅雨が明け、降雨も少なく「から梅雨」状態になり、水の心配な状況になりました。水不足の地域があったものの、8月のお盆頃の降雨によって分げつも順調に推移、

令和7年産米 広島中央地域 品種別等級比率

令和7年11月6日現在

銘柄名	1等比率	2等比率	3等比率
コシヒカリ	75.8%	23.3%	0.9%
恋の予感	95.9%	4.1%	0.0%
あきさかり	83.8%	14.2%	2.0%
あきろまん	90.4%	8.2%	1.4%
中生新千本	87.5%	12.5%	0.0%
もち	0.0%	55.9%	44.1%

また出穂前後に降雨もあり、穂も充実し、順調に生育しました。梅雨明け以降は、気温が上がって猛暑が続く、生育も平年より5日ぐらい早くまりました。

収穫時期は、早生品種で約5日早く、中生品種では、8月上中旬に気温下がったこともあり、平年並みの収穫時期になりました。

◆品質について

早生品種では、出穂時期に高温になり高温障害による品質低下が心配されました。秋の検査時には、コシヒカリ等の早生品種を中

心に高温障害（心白・乳白等）が見られました。あきろまん等の中生品種では収穫前の降雨と高温が発芽米による品質低下（低格付け）を招く一つの要因になりました。

◆病害虫の発生状況

「あきさかり」や中生品種を中心に「紋枯れ病」の発生で減収になった圃場も見受けられました。8月下旬の「あきさかり」の出穂時期に降雨で高温・湿度の影響を受け「紋枯れ病」が発病したとみられます。また近年、「紋枯れ病」の発生が少なかったことや防除のタイミングが遅れたことも原因の一つと考えられます。今年発病した圃場では病原菌が越冬し、来年も発病する可能性が高いため、対策を行ないましょう。

いもち病は、高温の影響もあり発生は少なかったです。害虫被害は、今年もカメムシ類（特にイネカメムシ）の発生が多く、品質低下（2等以下の格付け）の要因になりました。ウンカ等やその他害虫の被害は少ない状況でした。

◆雑草（ヒエ）について

気温が高く推移したこともあり、後発雑草（ヒエ等）の発生がみられました。体系処理や除草剤の変更を検討しましょう。また、近年では藻の発生圃場が目につきます。藻へ効果がある除草剤を選びましょう。

◆令和8年産に向けて

●暑さ対策

①土づくりを行ないましょう（土壌改良資材や完熟堆肥等の散布を行ない、しっかりと根が張れる土壌環境作りを）

②田植え時期の検討

●病害虫対策

①出穂前後の基幹防除の確実な実施

②紋枯れ病対策（出穂前の防除と多発田には予防対策として紋枯れに効果がある成分入りの箱処理剤使用を）

●藻の対策

藻が発生すると地温が上がらなくなるので注意をしましょう。特に、田植え後の発生は初期生育を抑えるので藻の対策をしてください。

野菜

農閑期の準備とタマネギの栽培管理

収穫終了後から来年にむけた野菜作りはすでに始まっています。特に栽培期間の長い果菜類などは、冬場の土づくりが収穫や品質に大きく影響します。

◆農閑期の土づくり

秋冬野菜の収穫が終わった圃場や、夏野菜の栽培終了後に何も作付けしていない圃場の土づくりは、冬季に行なうことが非常に有効です。

冬場の土づくりには次の効果があります。

- ① 土壌を寒気にあわすことで、土壌の害虫や病原菌密度を下げる
- ② 土壌構造（団粒構造）を改善する
- ③ 次作に向けた土壌養分を供給できる

◆土づくりのポイント

野菜の根が健全に生育するには、「水はけと通気性が良い」「保水性が良い」ことが重要な条件になり、これが安定多収につながります。土には細粒の粘土と粗粒の砂の

割合が異なる「団粒構造」と「単粒構造」があり、団粒構造にすると孔隙率が高くなり空気や水を適度に含むため根がよく張り、野菜の健全生育が期待できます。

しかし、作付け年数の経過や降雨などで次第に土が締まり単粒構造となって生育が悪くなります。対策として完熟堆肥や落ち葉等を完熟させた物を散布し、よく耕しましょう。

◆野菜畑の土づくり

- ① 圃場内の清掃を徹底！

前作の残渣（葉茎や果実等）が残っていると病害虫被害の原因になります。

- ② 耕起はなるべく早く深く！

耕起は収穫終了後、早めに深く行なうのが理想です。気温等が低下した時期に耕起すると越冬害虫や土壌病害の対策が期待できます。

- ③ 夏秋野菜作付地には「堆肥」「リン酸肥料」

完熟堆肥と同時に施すと、特に夏秋野菜栽培圃場で効果が高まります。

◆タマネギの栽培管理

タマネギは冬の寒い間、あまり成長しませんが、根は成長しています。

冬の間は気温が低く、土が乾き

にくい時期ですが、水をやり過ぎると根腐れなどを起こし枯れてしまうことがあります。また、タマネギは意外と寒さが苦手ですので、品種によっては防寒も必要です。

寒い地域では、土が凍って根が傷んだり、寒風に当たって葉が傷んだりします。冬の間、寒さによる根や葉の痛みを軽減するだけでも、年を越してからの成長に差が出ます。

また、黒マルチを利用してない場合は、「すくも」やわら等を引いて地温が上がるようにしましょう。

●病害虫防除

病害虫の防除は、病気の予防を中心に年内に最低1回は、行なうようにしましょう。

予防薬剤は

- ・ダコニール10000
倍数…10000倍
収穫前7日
- ・シグナムWDG
倍数…1500倍
収穫前7日

防除は、できるだけ天気の良い朝または夕方気温が下がって凍らない日に行ないましょう。

薬剤や栽培管理については、お近くのアグリセンター・営農指導員にご相談ください。

東広島市
園芸センターより

農業者の土づくりを支援する補助事業のご紹介

東広島市園芸センターでは、土作りの支援の一環として
土壌分析検査支援事業を実施しています。

【対象者】

東広島市在住で、市内の農地で野菜や果樹、花きの園芸作物を出荷販売する農業者及び農業者団体

【対象となる内容】

- ・ほ場の土壌分析診断に要する経費に対して補助金を交付
- ・補助率 2/3以下、上限5万円
- ・窒素など一般的な主要肥料成分の分析と併せて、微量元素または微生物等の生物性の分析を行なうもの
- ・土壌分析検査業者等に依頼するもの（見積書が必要）

【その他】

- ・土壌分析診断を依頼する前に、補助金交付申請が必要です。事前に園芸センターへ相談してください。
- ・予算の範囲内での補助金交付となります。

申込・問い合わせ

東広島市園芸センター
TEL (082) 433-4411





広島中央地域事務所の 移転について(お知らせ)

広島中央地域の効率的な事業展開と地産地消を核とした販売事業の拡大、JAひろしま全域での広域的な物流体制を確立するため、広島中央地域の事務所を移転させていただくことになりました。

皆さまには大変ご迷惑をおかけいたしますが、今後ともサービスの向上に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



©ここまる

広島中央地域(総務管理課・信用共済課)

新住所 東広島市西条中央
5丁目8-10(2階)

総務管理課

TEL(082)422-2166

FAX(082)422-0328

信用共済課

TEL(082)422-2167

FAX(082)422-0328

※電話・FAXの番号に変更はありません。



移転日

令和8年1月26日(月)



広島中央地域
(総務管理課・信用共済課)

(旧・広島中央地域営農経済センター事務所)

広島中央地域 営農経済センター(営農販売課・購買課・食糧センター)

新住所 東広島市八本松東2丁目21-1 東広島流通センター市場棟2階

※電話・FAXの番号に変更はありません。

営農販売課

TEL(082)423-5913

FAX(082)424-3933

購買課

TEL(082)424-0240

FAX(082)424-3957

食糧センター

ダイヤル(0120)342-911

FAX(082)424-3957



移転日

令和8年1月13日(火)



広島中央地域
営農経済センター
(営農販売課・購買課・食糧センター)

購買品年間供給履歴配布のお知らせ

購買品年間供給履歴のご提供を次のとおり行ないます。令和7年の農業申告添付資料として購買品の履歴が必要な方は、最寄りのグリーンセンター窓口までお申し込みください。

【サービス開始日】 令和8年1月20日(火)

【履歴期間】

購入日基準 令和7年1月1日～12月31日

決済日基準 令和7年1月25日～12月27日

農機センター 休業のお知らせ

年末年始は次の期間中、休業させていただきます。休業期間中はご迷惑をお掛けしますが、よろしくお願いします。

令和7年12月24日(水)

令和8年1月6日(火)

アグリセンター 棚卸による 休業のお知らせ

棚卸に伴い、まことに勝手ながら12月30日(火)はアグリセンターを休業させていただきます。

ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。